

1 部会活動

☑部会開催回数および開催日

・12回開催(4/26,5/24,6/28,7/26,8/30,9/20,10/25,11/22,12/27,1/25,2/28,3/28)

☑参加機関

・各地域部会(中央北、東部、南西)からの代表者

地域サポートセンター仲よし

相談支援センターあしすと

救護施設 浦安荘

岡山南障がい者相談支援センター

・岡山市基幹相談支援センター

・オブザーバー 岡山市障害福祉課



2 活動の内容

☑地域課題の抽出～整理～調査、研究を適宜実施

☑課題解決に向けた方策の検討

☑社会資源の開発や改善に向けた提言等

☑他部会、WGとの連携

・地域部会等との連携

☑サービスの質向上に向けた研修会の企画(強度行動障害者への支援)



3 課題に関して

- 就労継続支援B型事業所の横のつながりの場がなく、作れないか。
- 就労継続支援B型と地域活動支援センター I 型の併用利用ができないか。
- ふれあい収集の対象者拡大に向けた働きかけができないか。
- 保育所等訪問支援について保育園側への認知が低い。
- 緊急を要する(当日利用したい)際の短期入所先が見つげにくい、見つからない。
- 男性ヘルパーが少ない。
- 相談支援専門員が少ない。
- 北部地域の社会資源が少ない。
- 行動障害に対応できる、している事業所が少ない。



4 就労継続支援B型事業所連絡会(仮称)設立に向けた取り組み

○参加機関:(社福)浦安荘 (社福)育成会

(社福)弘徳学園 (社福)泉学園 より各1名

福祉サービス部会



○開催日・内容

5/24:自己紹介、会の目的について

6/29:参加事業所の現状と課題、連絡会設立に向けた企画検討

7/6:参加事業所同士でHPやパンフレットを活用した事業所プレゼン

9/20:各事業所の個別支援計画の書式、内容について

11/22:各事業所の職員配置状況等について

1/25:これまでの会の振り返りと今後について

3/28:アンケート実施について

5 モデルケースの取り組み

○R3年度の強度行動をテーマとした研修後に、モデル事例になることを候補していただいた7ケースから2ケースを選定。

・岡山市発達障害者支援センターにも加わっていただくケース会議に参加。ケースへの支援状況、進捗を追う作業を実施。

・R4年度研修会に向けた打合せ。

6 研修会の開催

(つなぐ・つながる支援の輪Vol.7～強度行動障害の現在地と未来予想図Ⅱ)

強度行動障害とされる方への支援を実施している地域の支援機関の現状を取り上げ、ご本人やご家族が地域社会において安心して暮らすことへの実現に向け、支援体制構築の一助になれるよう本研修会を企画・実施。

- ①開催日 令和5年2月25日(土)
- ②開催場所 ウェルポートなださき かしの木ホール
- ③登壇者 障害者支援事業者 岡山県精神科医療センター
岡山市発達障害者支援センター おかやま発達障害者支援センター
岡山市障害福祉課 障がい者地域生活・行動支援センターか～む
- ④参加状況 123名
- ⑤内 容
 - 基調講演① 岡山県精神科医療センター 院長 来住由樹 氏
 - 基調講演② 障がい者地域生活・行動支援センターか～む
森口哲也 氏
 - シンポジウム① 強度行動障害者の生活を支えよう・考えよう
 - シンポジウム② 岡山市で取り組めることについて考えよう



強度行動障害の現在地と未来予想図



日時 2023 **2.25** 土曜日 10:00
日曜日 17:00 (9:30受付開始)

会場 ウェルポートなださき
岡山市南区片岡 159-1 **定員100名**

I ▶ 基調講演 10:10-11:30

岡山県精神科医療センター院長

来住 由樹氏

▶ シンポジウム 12:30-14:00

『強度行動障害の方の生活を支えよう・考えよう』

【登壇者】

- おがやま共育・共働センターでんでん（管理者 横山 竜也氏） ○すまいる（生活支援員 高見 康氏）
- 岡山南障がい者相談支援センター（相談支援専門員 香川 正憲氏） ○ティール（管理者 赤松 基史氏）
- 岡山市発達障害者支援センター（主任 松本 麻里氏）

【進行】岡山市障害者自立支援協議会福祉サービス部会（岡 誠氏）

II ▶ 基調講演 14:10-15:30

福岡市社会福祉事業団

障がい者地域生活・行動支援センターが〜む

森口 哲也氏

▶ シンポジウム 15:40-16:50

『～岡山市で取り組めることを考えよう～』

【登壇者】

- 岡山県精神科医療センター（院長 来住 由樹氏） ○おがやま発達障害者支援センター（所長 新谷 義和氏）
- 岡山市発達障害者支援センター（医療専門監 壺内 昌子氏） ○岡山市障害福祉課（課長 小西 一郎氏）

【助言】障がい者地域生活・行動支援センターが〜む（森口 哲也氏）

【進行】岡山市障害者基幹相談支援センター（平松 啓生氏）

■主催：岡山市障害者自立支援協議会 ■共催：岡山市障害者基幹相談支援センター

お問い合わせ先・お申込み方法は裏面をご覧ください





7 参加者の声(アンケート抜粋)～シンポジウムについて～ 回答数40件

○医療サイドの考え方に基づく連携等について知ることができた。理解できた。福祉のもつ視点と医療のもつ視点の違いに触れられ、理解がすすんだ。

○か～むの取り組みについて大変勉強になり参考になりました。リーダーシップとして「サビ管やリーダー層が…」耳が痛い話ですが、実践も終えた方々(職員)とも協力しながら日々支援していきます。

○定期的他職種連携は必要であると分かるがつい現場で手いっぱいな現状だからとみすごしていることがありました。職員の質の向上、チームとしての支援について現場をまわしていく計画のくみ直しをと思いました。

○強度行動障がいでの強度行動を減らすことばかりに注目せず、その人の背景を知ることが大切で、時間がたつ程難しくなると事例を通してよく分かったので、今後意識して情報収集していこうと思った。

○強度行動障害に対する支援の最前線に立たれている方々の生の体験談をうかがうことができ、「自分にもできること」を改めて考えることができた。

○事例が多く、イメージしやすかった。岡山市以外の取り組みも聞くことができよかった。現場の生の声をもっと聞きたくなった。様々な立場の方の話が聞けて、勉強になりました。

○自身の立場でできること、していかないといけないこと、たくさんあるなと改めて認識しました。今日の研修内で示された大切な視点を再確認して業務に当たりたいと思います。